

暮らしやすさと活気と「たのしい」がたくさん!! 市民がつかないで創るいつまでも住み続けたいまち

市制30周年記念事業のテーマは
たのしいをいっばいにつくる

愛知県のほぼ中央部に位置し、市域西側を
県都・名古屋市に、東側を県内最大かつ全国
有数の面積を有する豊田市に接する日進市
は、平成6(1994)年10月1日に市制施行
(旧日進町から昇格)。令和6(2024)年
10月1日に市制施行30周年の節目を迎えた。
名古屋市(面積326・46km²、令和6年12
月1日時点の人口233万2369人)と豊
田市(面積918・32km²、本年1月1日時点
の人口41万4502人)に挟まれた日進市
(面積34・91km²、本年1月1日時点の人口
9万4156人)は、面積が名古屋市の約10
分の1、豊田市の約30分の1というコンパクト
シティだ。

しかし、人口密度は全国772市(東京23
区を除く)中の上位136位(約2667人

／km²)に位置。広すぎず狭すぎず、日進市に
は程の良いにぎわいと、豊かな自然環境が備
わっている。

大学をはじめとする多様な種類の学校と、
市内に暮らす学生数の多い典型的な文教都市
でもある。同時に、特産もち米「こはるもち」
が全国発信されるなど、都市農業が盛んな側
面もある。

都市化のバランスが、いろいろな意味で、
とてもよく取れたまちといえるだろう。

名古屋駅から約45分間、同じく豊田市駅か
ら約17分間と、鉄道交通による主要都市への
通勤・通学の環境も良好だ。名古屋市営地下
鉄鶴舞線(赤池駅)や名古屋鉄道豊田線(赤池
駅、日進駅、米野木駅)、リニモこと日本初
の磁気浮上式鉄道で知られる愛知高速交通東
部丘陵線(長久手古戦場駅/長久手市)などの
各駅(隣接自治体に立地の駅も含む)を拠点
に、路線バスやコミュニティバス(くるりん
ばす)なども縦横に運行されている。

こんどうひろき
近藤裕貴
日進市長



こうした地理的環
境や、自然環境を生
かした先進的都市環境
の構築、通勤通学の便を
含めた良好な交通環境など
が相まって、日進市は、人口
減少が進む全国的潮流の中、
現在も人口が増え続ける、全国
的にも稀有な都市の一つとなっている。
市制施行した平成6年の段階で5万
3228人だった日進市の人口は、市制施行
10周年の平成16年の時点で7万3750人
に、20周年の平成26年の時点で8万6099



織田信長の父・信秀が築城したとされる岩崎城。昭和62年、本丸跡に五階構造の模擬天守を建築（模擬天守内部は手作り甲冑や年中行事の資料を展示）



人に、30周年の令和6年10月1日の時点で9万4140人にと、順調に増え続けてきた。また日進市の人口増は1960年代以降、旧日進町時代から持続中で、同エリアの人口増は半世紀以上にわたり続いていることになる。

近年発表される各種の「住み良さランキング」などにおいても、日進市は常に県内上位5市に含まれ、全国でも上位50位以内の常連として、高い評価を受けている。



日進市で育てた県奨励品種のもち米「こはるもち」は今や日進市の特産品として大人気だ

ただし、ここで重要なのは、優れた交通環境に伴う通勤・通学の便や自然環境、さらには大型の住宅団地が建設されてきたことなどの傍証的な要素だけでは、人口が長期にわたる安定的に増え続けるのは難しいという事実だろう。例えば、まちづくりの芯のところに時代を超えて人を引き付けるような、強固な核になる何かがあれば、傍証的・客観的な利点だけでは、安定的な意味での強みには転化しないはずだからである。

本ルポでは、都市的環境の適切な成熟とともに、長期にわたって人口が、しかも子育て世代・働き盛り世代の人口が着実に増え続けている日進市の「都市的魅力」の核になるモノとは何かを、及ばずながら少しでも探ってみたい。

もちろん、日本全体を覆う人口減少のトレンドは、いざいざ日進市にも例外なく及んでくるのが予測されている。しかし、そうした事態をあらかじめ想定内としながら、日進市では「第6次日進市総合計画」を基盤に、現状の活力やにぎわいを継続的に発展させ、さらに持続可能な未来を構築するべく、多彩な地域活性化施策・事業を展開している。そうした日進市における、

持続可能な未来に向けたまちづくりへのスタンスをシンプルに表現すれば「ポジティブ」の一語に尽きる。

それは例えば、「市制施行30周年記念事業」のメインテーマが「たのしいをいっぱいつくる」であることからもうかがえる。市民と行政が一体になって「まちづくりを楽しんでいる雰囲気」が、市制施行30周年記念事業（実際、市民公募型の事業企画が多い）における、この肩ひじ張らない標語からも、ごく自然に伝わってくるように思われる。

「楽しいことが好きなのは、実は私自身の性格でもあるのです」

そう言って笑う近藤裕貴日進市長は、生まれも育ちも日進市だ。16歳から21歳までを単身アメリカで過ごし、平成2（1990）年帰国後は、全国展開していた家業（レストラン



帰国後は、全国展開していた家業（レストラン

性格でもあるのです」

そう言って笑う近藤裕貴日進市長は、生まれも育ちも日進市だ。16歳から21歳までを単身アメリカで過ごし、平成2（1990）年帰国後は、全国展開していた家業（レストラン



市内在住の小中学生が自慢のアイデアや夢を形にする発明作品展「にっしん少年少女創意くふう展」表彰式の一コマ(市民会館)

持ってもらえるようなま
ちづくり、地域の人々が
安心して子育てできるよ
うな環境づくりを、市制
施行30周年を機に、さら
に推進していきたいと考
えております。

例えば最近、日進市は
10万人規模のインター
ネット調査を基にした『街
の幸福度 自治体ランキン
グ(東海版)』で1位になり
ました。日進市が『選ばれ

るまち』であ
る理由は多様
でしょうが、
最大の基盤は
大都市圏に位
置することに
よる居住環境
の良さ、就労
環境、通勤・
通学環境の良
さなどと、貴
重な自然環境
とのバランス
にあると思っ
ています。

従って、私
たちは今後も『人と緑を大切にすまち』とし
ての在り方を維持していくつもりですが、そ
うした環境的なアドバンテージに依存しすぎ
ることなく、常に市民のニーズに敏感であり
続け、応え続けなければなりません。

そして、今暮らしている市民の皆さまには
『ずっと住み続けていきたい』、よそのまちに
暮らす皆さまには『そんな日進市で暮らした
い、子育てをしたい』と思っただけで
う、さまざまな角度から努めていきたいと
思っております(近藤市長)

市民のニーズという意味では「鉄道以外の
公共交通の拡充化への取り組み強化が、大き
な課題の一つとしてある」と近藤市長。

「それにつきましても、令和4(2022)
年度からいち早く自動運転バス導入の実証実
験を行っており、近い将来の本格的な稼働へ
の手応えを得ています。また、市内に立地す
る大学のスクールバスの一部区間を、路線バ
スの代用として活用させていただくという試
みも行っています。さらには、コミュニティ
バス(くるりんばす)が通っていないエリアで
は、タクシーによる高齢者の少量輸送事業(く
るりんタクシー)を行うなど、限られた予算
の中で、こどもから高齢者までが快適に公共
交通機関を活用できる方法を、試行錯誤しつ
つ進めています。

このように、市内に備わるさまざまな環境

「おかげさまで子育てをされている20歳代
から40歳代までの方々に日進市を選んでいた
だいているという事実は、まちを歩いている
とたくさんのごどもたちが公園で遊んでいる
姿が『当たり前』のように見られることなどか
ら、私自身、日常的に実感できています。

だからこそ、そのごどもたちが、日進市で
すくすく育ち、自分が育った日進市に愛着を

子育て世代に人気の日進市 その背景には多様な訳がある

ン・チェーン)の代表取締役を経て、名古屋青
年会議所常任理事や日進市の市議会議員およ
び議長を歴任した。さらに令和元(2019)
年実施の市長選に出馬して当選。本年5月で
2期7年目を迎える。

最大の基盤は
大都市圏に位
置することに
よる居住環境
の良さ、就労
環境、通勤・
通学環境の良
さなどと、貴
重な自然環境
とのバランス
にあると思っ
ています。



若者のための舞台発表・体験会「にっしんヤングフェスタ」。毎年開催の恒例イベントだが、令和6年は市制施行30周年記念でひとときを盛大に開催された(市民会館)



「音楽のまち にっしん」を目指し令和2年から開催されている音楽祭「にっしん音結祭」。令和6年は市制施行30周年記念として開催された(市民会館)

日進市

市 政 ル ポ

(愛知県)



愛知県の尾張丘陵部から知多半島にかけて建設された愛知用水の中間点に位置する広大な「愛知池」(日進市・東郷町・みよし市)

最大の課題の一つは、DXの導入が代表するような、効率化に不可欠な「デジタル化の推進」といわれる。しかし、重要なのは単なるデジタル化(システム導入)の推進ではない。市職員はもとより、市民がいかにそれを有効活用できるか。行政がいかにそのような状況に導くことができるかにかかっている。

例えば、日進市が市民に提供している子育て関連アプリ(にしん子育てアプリ「Nぴよ」)についても、活用度は非常に高いという。全国的に遅れ気味なマイナンバーカードの有効活用においても同様だ。日進市ではマイナンバーカードの公的個人認証機能を活用し、健診や予防接種などに関しては月齢や年齢に

や地域資源との連携を図りながら、常に現状を打破するべく、オール日進市体制で進化への努力を続けることができるからこそ、私たち日進市の一つの強みではないかと、自負しております」(近藤市長)

強みといえば、子育て世代の多い日進市には、市民サービスにおいて積極的なデジタル化が図りやすいという側面も見逃せない。

近年の行政における



日進市の多彩な魅力を市内外の人々に体感してもらう夏・秋恒例の「日進ツアーズ」の様相(写真は中央可鍛工業㈱鑄造体験)

合わせ、必要な情報を随時発信することなどで子育て世代の関心を喚起し、多忙な子育て世代の手間を省きつつ、継続的な支援を行えるよう努力を重ねている。

「マイナンバーカードの活用については、カードの格納情報や表面記載情報を読み取り自動入力する機能を持つ『スマート窓口システム』を使って、市民の皆さまや職員の書類記入の手間を減らすなど、市民サービスレベルの向上や業務の効率化をさまざまな形で図っております。

さらに令和6年に実施された衆議院議員選挙からは、マイナンバーカードによる本人確認と名簿対照を行う、選挙投票入場受付サービスが実装されました。その他、マイナンバーカードからの情報はオンライン粗大ごみ



令和6年からスタートした、市民参加型の新たなイベント「コーヒーの街にしんプロジェクト」の様相

収集システムの活用などにも効果的で、市民の皆さまと職員の負担は、さまざまな場面において、目に見える形で減りつつあります」(近藤市長)

例えばこのような形で、身近なところからスマートシティ化を進め、効率化を図っていくことにより、市民には「暮らし方改革」がもたらされ、職員にも「働き方改革」がもたれる。

「さらに、今からスマートシティとしての各種の実装を進めていけば、いずれ日進市にも人口減少の局面が訪れた際など、少ない人員による効率的な働き方を実践するための準備にもなります。

同時にそれは、どのような状況になっても市民サービスの質を落とさないことにもつなが



名古屋学芸大学ヒューマンケア学部附属子どもケアセンターが日進市の委託を受け運営する「子育て支援センター」

がりますし、効率的な働き方を常に実践していくことで、職員の働き方改革も損なわれることはありません。さまざまな波及効果をもたらすものと実感しております」（近藤市長）

行政と市民がつないで創る 日進市ならではの持続可能なまち

コンパクトな日進市の市域には、五つもの大学のキャンパスが立地している。愛知学院大学、名古屋外国語大学、名古屋学芸大学、相山女学院大学、名古屋商科大学だ。市外の大学でも日進市とさまざまな関わりを持ち、まちづくりに協力している大学もある。愛知淑徳大学、愛知東邦大学、中部大学、名城大学の四校だ。

過疎化の進む地方都市で公共交通を利用すると高齢者の姿が目立つ。日進市内の電車・バスに乗ると、若者たちの姿が高齢者以上に目立つ。そして、彼らの多くは日進市および隣接するエリアで暮らしている。このように、子育て世代に学生（市内在住）も加えた若い市民の多い日進市の特質を考えると、これまで述べてきたデジタル化の推進や、市民による使いこなしがスムーズに運びやすいという理由も、改めて納得できるのだ。

市内にキャンパスを置いている五つの大学および、まちづくりに協力する四つの大学を合わせた九つの大学と日進市は、いずれも連携協力協定を結んでおり、市民向け公開講座など数多くの連携事業が、各大学との協働により、実施されている。さらに、他の大学とも連携してさまざまな事業を行っている。

日進市における生涯学習は、行政が提供する生涯学習講座や、市民を含む民間が主催する各種講座のほか、大学が主催する各種公開講座までもが豊富にあるのだ。

こうした豊かな文化的環境は、スマートシティ化の実践による市民サービスのより一層の向上などに加えて、前出の「幸福度ランキング」や「暮らしやすさランキング」などにおいて、日進市が高い評価を受ける背景の「隠し味」として、ひそかに働いているのではないだろうか。

そんな大学と行政との連携関係の一つの好事例として、今回の取材では名古屋学芸大学



観光まちづくり人材の育成を目的に愛知学院大学とつしん観光まちづくり協会・日進市が協働開催する「産官学連携講座」の受講・修了生たちに市長から「観光SDGs修了認定書」を授与

ヒューマンケア学部附属子どもケアセンター内「子育て支援センター」を訪ねることができた。日進市との連携関係を通じて開設（委託）され、大学のヒューマンケア学部の知見を活用し、学生が授業やボランティアで関わる「子育て支援の場」という意味合いにおいて、この「子育て支援センター」は、全国的にもユニークな施設といえる。

同センターでは、0歳から1歳児の親子向けの「親子のひろば」、季節に合わせた遊びを提供する「親子であそぼう会」、4歳未満児の親子なら誰でも参加できる「自由開放」などのプログラムのほか、臨床心理士がこどもの育ちに関する相談に応じる「子ども心理相談室」の開設、保育・教育を学ぶ学生が主体的に企画・運営する「遊びの交流会」の開催、育児サー

日進市

(愛知県)

市 政 ル ポ

日進市ではまた、大学生を対象とする「機能別消防団員制度」を実施している。これは災害時などに避難所で救済物資の配布の応援など、いわゆる「後方支援」をしてもらうための制度で、令和6年4月から公募している。団員は日頃から、消防・防災に関する知識・技能の習得に努めて防災リーダーの自覚を持ち、消防・防災に関する広報活動の手伝いをしつつ、いざという時の準備をする。

その他、SDGsの推進や啓発活動の担い手としても、少なくない数の大学生が参加しているほか、大学施設の市民への開放などの協力も、日進市との連携関係の中で随時行わ



「道の駅 マチテラス日進」の外観と「子育て支援施設・プレイルーム」のイメージパース。令和7年8月8日の開駅が待ちきれない!!

クルの運営支援など、多彩な支援事業が行われている。

れている。

以上、述べてきたように、日進市では市制施行30周年記念事業の軸を成すのが、年齢を問わない市民の公募による各種イベントであったり、大学との連携による、市内外に暮らす若者たちとの密接な交流が日常的に行われるなど、さまざまな局面において、行政と市民との密接な連携・協働関係が目立つ。

市制施行30周年記念事業のキャッチフレーズである「たのしいをいっぱいつくる」の謂れとは、まさにこうした、市民と行政とが「横並びの連携による絆」(近藤市長)で結ばれた状態を指すのではないだろうか。

そして、この市民と行政との横並びの連携による絆が、さらに深まりそうな事業計画が、現在、着々と進められつつある。本年8月8日に開駅予定の「道の駅 マチテラス日進」である。

「マチテラス日進は令和6年8月7日、国土交通省から県内19番目の道の駅として登録されました。私はこの道の駅を単なる物販センターや防災拠点としてではなく、市民の発表・発信の場のステージとしても、ぜひ活用してほしいと熱望しています。

発表することの内容は何でもいいのです。歌いたい人、ダンスをしたい人、何かを展示したい人。そうした市民の皆さまの発表・発信意欲を高め、表現するための拠点として大いに活用していただき、日進市に暮らすことの楽しさを、そんなところからも実感してい

ただきたいと夢想しております」(近藤市長)

マチテラスは日進市を表す「まち」と、まちを「照らす」のテラスを合わせた造語で、利用者にとつての温かいテラスのような場所であってほしいという願いが、込められているのだそうだ。

市制施行30周年を経て開駅する「道の駅 マチテラス日進」は、市制施行40周年、50周年、さらにその先もずっと続いていくであろう「たのしいをいっぱいつくる」まち・日進市にとつて、新たなランドマークとなり、市民を中心とする利用者にも、末永く愛されていくことが確実と思われる。

(取材・文：遠藤隆／取材日：令和6年11月29日)



「道の駅 マチテラス日進」の登録および建設計画を推進したプロジェクトチームが「市政ルポ」取材で大集合!!